

脳卒中・循環器病のEvidence-based policy makingの推進に関する研究

研究分担者 平松 治彦 情報統括部 部長

研究要旨

本分担研究では、循環器病疾患による死亡予測およびそれらのための各種統計料の把握のために必要となるより精度の高いデータベース作成のためのデータ収集方法に関する検討を行った。

A. 研究目的

循環器病対策の推進のために必要となる情報の収集として、既に大規模なDPCデータベースなどが構築されているが、より精度を上げるためには、より詳細な診療情報が必要となる。しかし、より詳細な入力を医療機関に求めても人的・時間的な負荷の問題が大きく、診療活動を阻害する要因となりかねない。そこで、HIS(病院情報管理システム)の持つ診療情報を活用し循環器病疾患情報を自動的に収集する手法について検討した。

B. 研究方法

2019年に「非感染性疾患対策に資する循環器病の診療情報の活用の在り方に関する検討会」の報告書が提出されている。この報告書において定義された、循環器病6疾患に関する収集項目について、DPCやレセプト情報を含めHISの持つ診療データを活用してどこまで自動的に収集できるのかの確認を行った。また、入力負担を軽減できるインターフェース（入力システム）についても検討を行った。

（倫理面への配慮）

個々人の診療情報ではなく、医療機関で取り扱われる診療情報の各項目についての確認である。

C. 研究結果

国立循環器病研究センターの持つ診療情報と突合、確認をしたところ、少なくとも約50%の項目については自動的な収集が可能であることが判明した。また、入力支援の仕組みとして、Webシステムを活用した入力システムを構築した。

D. 考察

医療機関における診療情報はリアルタイムに変化（追加）される反面、DPCやレセプトは確定するまでに時間を要するため、一定期間（3か月程度）未満のリアルタイム性を求める場合はデータとして精度だけ

でなく、自動的な収集が難しいと考えられる。さらに、自動収集したデータが査定や返戻により事後修正される場合の対応についても課題である。

E. 結論

循環器病対策推進のためのデータ精度向上について、既存HISデータを活用した入力の自動収集について検討し、一定程度の効果があることが分かった。

F. 健康基本情報

（総括研究報告書にまとめて記載）

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。